

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：フィリピン）実践報告書

吉井町立入野小学校

長竹 智宏

タイトル：異文化に親しみ、国際的な視野を持って考えようとする児童の態度の育成

実践教科：クラブ活動（時間数：3時間）

対象学年：3・4年生

対象人数：20人

カリキュラム案

(1)実践の目的

フィリピンについての学習を通して、児童が異文化に興味を持てるようにするとともに、自分や日本について見つめなおすことができるようにする。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：フィリピンの遊びを楽しもう！ ねらい：フィリピンの遊びの体験を通して文化の違いへの関心を高める。	1.写真からフィリピンの子ども達が生きている遊びやスポーツを知る。 2.鬼ごっこやバスケットボールを实际にやり、フィリピンの文化に親しむ。	・教師の訪問先で出会った子ども達の写真
2 限目 テーマ：フィリピンから学ぼう！ ねらい：フィリピンの生活の知恵を知り、文化を尊重する気持ちを持つ。	1.地図や資料から児童の視野を広げ、様々な物の見方の存在に気付く。 2.椰子の実や竹、バナナ繊維の資源を活用して作った物や、ゴミから作ったリサイクル製品などから、物や環境を大切にす姿勢を学ぶ。	・南半球中心の地図、『世界がもし100人の村だったら』～マガジンハウス（編）～からの資料 ・パーム油石鹸、椰子の実や竹で作った楽器、バナナ繊維で作った民族衣装や紙、ゴミから作った袋
3 限目 テーマ：フィリピンの小学生に手紙を出そう！ ねらい：手紙で日本の紹介をし、国際交流することへの関心を高める。	1.視聴覚教材を利用し、フィリピンのある女の子の生活から、異文化での生活への関心を高める。 2.フィリピンのある小学校の児童と自分達との意識の違いや知りたいことを、アンケート結果からつかむ。 3.フィリピンのある小学校へのクリスマスカードを作り、その子ども達が考えた質問への回答も書く。	・『地球の仲間たち』開発教育を考える会 ・勤務先の小学校と訪問先の小学校とで実施したアンケートの結果の資料 ・『英語のできる国際交流アイデア集①』（岩崎書店）

○授業実践の詳細（10. 11. 12 月中に 1 時間ずつで計 3 時間の実施）

< 1 限目 楽しむ >

児童が異文化に親しみ、文化の違いへの関心を高めるような体験活動として、フィリピンの遊びを知り、楽しむことが有効であると考え、校庭で場を作って実践した。

導入で、教師の現地での体験を写真を見せながら話すとともに、フィリピンと日本を比較するような発問をし、文化の違いに気付けるようにした。訪問した小学校の体育の時間に日本では知られていない遊びを体験したことや、日本の小学生が親しんでいる縄跳び（短縄・長縄の両方）が現地ではあまりなされておらず、紹介してきたこと、フィリピンで人気のスポーツはバスケットボールで、住宅街で遊んでいた子ども達の仲間に入って一緒にできたことなどを話すと、児童は初めて知るフィリピンと日本の文化の違いに興味をもちながら聞いている様子だった。その後、4 チームに分かれ、フィリピンの遊びとバスケットボール（中学年は未習、3 on 3 式）とを交替で体験した。対戦型のため熱中して取り組む児童の様子がうかがえた。最後に、遊びやスポーツで楽しめたように、文化の違いを認め合って大切にしていくことで、世界中の人々と友だちになれることを伝えた。それ以降、休み時間に進んでフィリピンの遊びを楽しむ児童の姿も見られた。



< 2 限目 学ぶ >



グローバルな視野で日本を見つめることで、様々な物の見方があることを知るとともに、異文化から学んだことを自分達の生活に生かすことで、異文化を尊重する態度を育めると考え、授業を実践した。

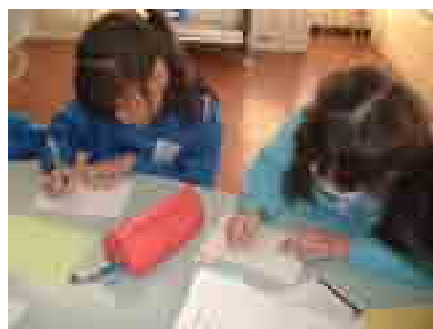


導入で、南半球が上になる世界地図で日本やフィリピンの位置を確認したり、『世界がもし100人の村だったら』～著者 池田香代子（編）マガジンハウス（編）～の一部を読んで聞かせて、様々な観点から世界における日本について知ったりすることで、様々な物の見方があるように世界中の文化にも様々な違いがあることを気付かせた。その後、教師がフィリピンで作られたり、使われたりしている物を見せて、身近な資源やゴミを有効利用するフィリピン人の生活の知恵について、教師が学んだことを児童に伝えた。特に、スナック菓子やジュースなどのアルミ製の空き袋を縫合して作った袋を見せると、児童のリサ

イクルへの関心にも高まりがうかがえ、児童の日頃の生活を見直すように促した。最後に、それぞれの文化のよさを自ら見出し、異文化から学び合うことの大切さについて話した。
＜3限目 発信する＞

異文化を知ることで、自国の文化を見つめ直すとともに、異文化の中で暮らす人々と互いに理解し合っていくためにもコミュニケーションや交流が大切であると考え、フィリピンのある小学校への手紙を書くという体験活動に取り組みました。

導入で、視聴覚教材を活用して、フィリピンのある小学生の家庭や学校での生活を紹介したり、教師が行ったアンケートの結果を示し、自分達とフィリピンのある小学校の児童達の意識について比較し、フィリピンの人々について理解の一助となるように教師のホームステイでの体験談等も話した。児童のつぶやきやワークシートの感想から、フィリピンと日本との様々な違いに関心をもった児童が多くうかがえ、交流したいと考える児童もいた。その後、児童の願いを取り上げ、交流の第一歩として教師が訪問した小学校の児童へのクリスマスカードを書くことで、相手の文化を尊重し、自国の文化を伝えることの大切さを体験的に学ぶ機会をつくった。総合的な学習の時間や国語でローマ字を学習している児童たちは、書き方の例を参考に自分の名前や「メリークリスマス」等をアルファベットを用いて書き、国旗等の絵を自由に描き加えてカードを作成した。



○授業実践を通しての所感・反省点・今後の改善策

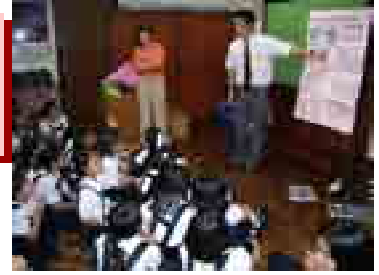
教師の体験や学んだことをもとに授業をすることで、児童は高い関心や期待を持って授業に臨んだ。事前に日本とフィリピンの子ども達にアンケート調査をし、その結果をもとに異文化理解や国際交流につなげていくという道筋を授業実践の柱として考えたが、自作視聴覚教材の作成やフィリピンの小学校との連携などで教師の準備不足が否めず、十分な効果は上げられなかった。ただし、国際理解教育で十分な効果を上げるには、具体物や写真・映像、情報などの教材化にとどまらず、交流などの体験の機会を子ども達に提供していくことが望ましいに違いないと思う。そこで、教師が行政や国際協力団体への学校教育への協力を要請し、学習の機会を広げていくことが大切で、学校全体に効果的な国際理解教育を根付かせるためには、私自身も含め、国際理解教育担当教員が継続的に提案や行動をしていくべきだと感じている。

○ 2つの国でのアンケートの実施と結果の考察、それらを生かした授業実践について

同一の内容のアンケートを実施し、日本とフィリピンの学生の意識の違いを取り上げ、国際理解の授業に生かせないかと考え、次のような5項目の質問をし、集計した。

1. あなたの好きな教科は何ですか。
2. あなたの将来の夢は何ですか。
3. あなたの宝物は何ですか。
4. フィリピン[日本]のよいところを書いて下さい。※[]は日本
5. 日本[フィリピン]の生徒たちに聞きたいことは何ですか。

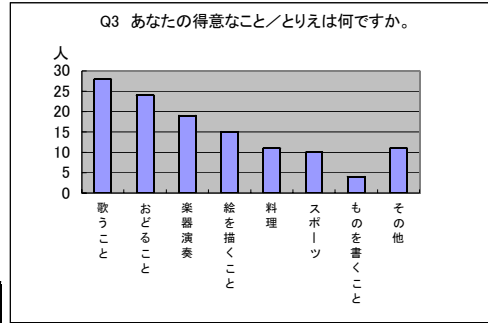
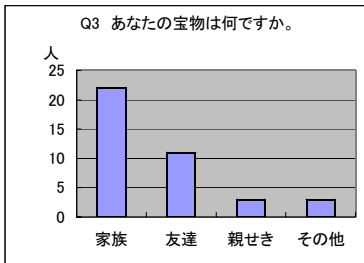
フィリピンで訪問した私立女子校の小学生に日本の小学生の回答について説明→



↓フィリピンで訪問した私立女子校の小学5年生85名の回答の抜粋

3. What is your treasure(asset/talent)?(あなたの宝物[得意なこと/とりえ]は何ですか。)

宝物	family	friends	relatives	others						
家族	友達	親せき	その他							
	22	11	3	3						
得意なこと/とりえ	singing	dancing	playing music	drawing	cooking	playing sports	writing	others		
歌うこと	おどること	楽器演奏	絵を描くこと	料理	スポーツ	ものを書くこと	その他			
	28	24	19	15	11	10	4	11		



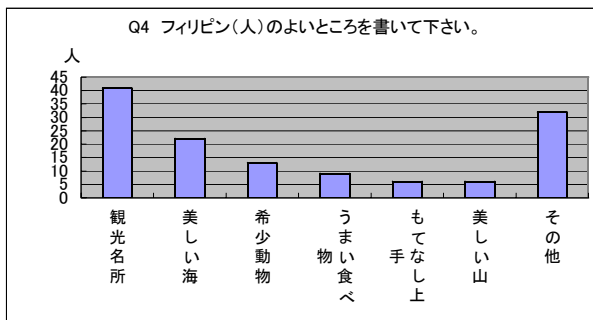
その他 (各1人) dog(犬), own life(自分の命), knowledge(知識)

その他

3人	acting(演技をすること)
2人	studying(勉強すること)
1人	using computers(コンピューターの活用), speaking(話すこと), designing dress (ドレスのデザイン), reading books(読書), making songs(作曲)

4. Please write a good point about the Philippines.(フィリピンのよいところを書いて下さい。)

tourist spots	beautiful sea	rare animals	delicious food	hospitable	beautiful mountains	others
観光名所	美しい海	希少動物	うまい食べ物	もてなし上手	美しい山	その他
41	22	13	9	6	6	32



その他

3人	much natural resources(たくさんの天然資源), many island(多くの島), friendly people(友好的な人々), the museum(美術館)
2人	religious(信心深い), a rich culture from different influences(様々な影響による豊かな文化), many nice churches(たくさんの立派な教会)
1人	simple(質素), strong(強い), respectful(礼儀正しい), hardworking(働き者), talented(才能がある), different traditoins(様々な伝統), a great history(偉大な歴史), a lot of tourists(たくさんの観光客), many entertainers(たくさんの芸能人), fine weather(よい天気), many beliefs(多くの言い伝え), people can speak fluent

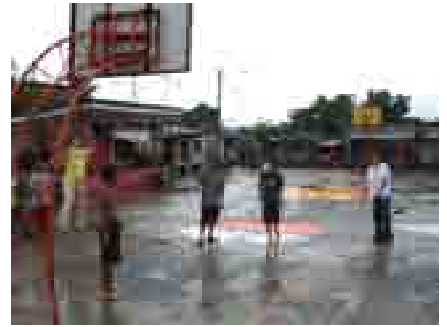
1については、学年によって学習する教科に異なりがあり、2については、富裕層の多い学校で高学歴志向が顕著であったため、比較する資料としての活用は難しかった。

3については宝物として家族や友達をあげる点は共通性があるが、歌や踊りが得意とするのはフィリピンの陽気な国民性の現れと考え、取り上げた。4については、日本について、治安のよさや生活の利便性をあげる日本人児童が目立った一方で、フィリピンについては、観光名所やゲストを礼儀正しくもてなす国民性をあげる傾向がうかがえ、取り上げた。

5については、フィリピンへのクリスマスカードで日本について伝える際に提示して活用した。

○授業の中で使用した写真や物、教材

< 1 限目 楽しむ >



小学校の体育での遊び的活動

小学校の体育で縄跳び紹介

フィリピンで人気のスポーツ

< 2 限目 学ぶ >



- ・ゴミから作ったアルミ袋
- ・椰子の実や竹で作った楽器
- ・パーム油で作った石鹸
- ・バナナ繊維で作った葉書や民族衣装「バロンタガログ」
- ・使い方が多様な布「マロン」

ゴミ山の問題とリサイクル

フィリピンで作られた物 (→資源の有効活用、リサイクル)

< 3 限目 発信する >

使用した教材については 1 枚目に明記した。

～ [補足] 小学校英語活動における国際理解教育の位置付けの案～

国際理解教育は様々な教科や道徳、学活以外に、学校によっては総合的な学習の時間に重点的に取り扱われる。英語活動の時間に取り扱っていくことも可能で、今後検討したい。

	題 材	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
4 月		<div style="border: 2px solid purple; padding: 5px;"> 小学校英語活動で 6 年間の系統性をもたせた指導計画が学校単位で作られているが、その際に、国際理解教育でも 6 年間の指導の系統性を職員で共通理解し、指導に重点をおく月があれば効果的と考える。 </div>					
5 月							
6 月							
7 月							
9 月		<div style="text-align: center;">↓</div>					
10 月		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> 9 月は新しい ALT が赴任することも多いので、T-T では習った英語を用いつつ、異文化理解の学習をするような機会を作り、担任単独では、学年の発達段階に応じた授業を日本語中心で行うのがよいと考える。高学年では国際交流活動につなげたい。 </div>					
11 月							
12 月							
1 月							
2 月							
3 月							